

「豊かな自然・仲間，そして新しい未来へ向かって」

三原市立八幡小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流

体験活動場所・宿泊場所 国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

本校は，三原市の北部にあり，周りを緑に囲まれた中山間地に位置する。近くには，1300年前に創立された御調八幡神社があり，歴史・文化が深く刻まれたところである。近年，児童数の減少により平成24年度末には閉校の予定である。児童は地域の行事や古くから伝わる花踊りに参加し，地域の文化や歴史に触れる機会が多い。また，地域の方から仕舞等を教わり，体験活動・交流学习を行うことができる環境の中で育ってきている。平成15年度から総合的な学習の時間において，国際理解に関する学習の一環として英語活動を推進してきた。現在はその成果を外国語活動に生かし，取組を続けている。

校長名：橋本 哲人

児童数(学級数)：22名(3学級)

所在地：三原市八幡町宮内277番地

電話番号：0848-65-8206

URL：<http://www.mihara.ed.jp/~yahata-es/>



【体験活動のねらい】

自然や文化に関心を持ち，互いに協力し，支え合って積極的に集団宿泊的行事に参加しようとする力を育てる。

困難や課題を解決する力を育むため，様々な活動の中で，どのように行動するかについて「考え，判断し，仲間とともに協力して実践する」場の設定を行う。

集団宿泊的行事の意義や目的，校外における集団生活のあり方や公衆道徳などについて理解させる。

平成25年度4月統合予定である他校（久井小学校，羽和泉小学校，久井南小学校）と合同で実施することで，児童のコミュニケーション能力の向上と仲間意識の醸成を図る。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施 時間数	教育課程上の 位置づけ	実施場所	指導者
7月	合同宿泊体験学習の計画	2	特別活動	八幡小	担任
	合同宿泊体験学習の仲間づくり	2	特別活動	羽和泉小	講師 担任

8月30日 ～ 9月2日	合同宿泊体験学習 ・ カヌー体験 ・ 里海体験活動 ・ 昼食作り ・ キャンドル作り ・ 三高小学校との交流 ・ 清掃活動 ・ 家族への手紙 ・ キャンドルサービス	24	学校行事 体育科 理科 家庭科 図画工作科 特別活動 道徳 国語科・道徳 特別活動	国立 江田島 青少年 交流の家	4小学校 の引率 教職員
9月	体験感想文 お礼の手紙 合同宿泊体験学習振り返り	2 1 2	国語科 国語科 特別活動	久井小	担任
10月	「活動を報告する文章を書こう」	5	国語科	八幡小	担任
11月	合同宿泊体験学習発表会 まとめ	1	国語科 特別活動	八幡小	担任

【体験活動の概要】

事前交流学习

他校の児童との対面を行い、ゲーム等を通してお互いの親睦を図った。その後、班構成を行い、各班の合言葉を決めたり協力して班の旗を作ったりする活動を行った。この交流学习は、少人数での活動が多い本校の児童にとって、大変貴重な経験の場となった。特に、参加者6名のうち4名が進んで班長に立候補するなど、普段の生活では見られなかった積極性の高まりが見られた。



カヌー体験

「国立江田島青少年交流の家」附属の水泳場で、初心者向けのカヌーを使ったカヌー体験を行った。基本的なカヌーの漕艇技術を身につけるとともに、二人一組のバディを組み、安全に留意して活動することができた。

普段の生活では体験できないこの活動を通して、海に親しみ、自然の中で活動することの楽しさを心から味わうことができた。



野外炊飯活動

2日目の午前中には、昼食（「すき焼き」）作りを行った。ほとんどの児童が野外炊事初体験という中で、班にとっての初めての共同作業であった。各班ともグループ内で仕事を分担し、協力しながら作業に取り組んだ結果、おいしい昼食を作ることができた。

里海体験活動

里海科学館の西原館長さんを講師に迎え、荒代海岸で海辺の生物の観察や採集を行った。採集した生物について、班ごとに感想を話し合った後、紹介したい生物を一つ選び、全体で発表し合った。児童は、海の多様な生き物を実際に採集し観察することで、瀬戸内海の豊かさを感じることができた。

また、夜にはウミホタルの観察も行った。児童は、暗い海に浮かぶ幻想的なウミホタルの光に心から感動している様子だった。



家族への手紙

3日目の夜に、家族にあてて手紙を書く活動を行った。今回の宿泊体験学習では、初めて親と離れて寝るといふ児童もあり、当初は大変不安がっていたものの、この学習を通して色々学んだり楽しんだりすることができた。思い出をたくさん作ることができたこと、そして普段の自分の生活が家族によって支えられていることなど、家を離れて改めて感じた家族への感謝の気持ちを込めながら、丁寧に手紙を書くことができた。

【体験活動の効果を高める事後学習】

4校交流授業

9月に合同宿泊体験学習を行った4校が再度集まり、事後交流学习を行った。それぞれの班で各自が一番思い出に残ったことを交流した後、班で思い出ベスト3をまとめ、理由とともに全体に発表した。

各班とも合同宿泊学習以来久しぶりに再会した仲間とともに、活発に意見交流することができた。特に、本校に一人だけ在籍している5年生男子児童にとっては同学年の男子と定期的に会い、共に語り、活動できるという、ものの見方・考え方が深まる素晴らしい体験学習となった。



国語科「活動を報告する文章を書こう」

本単元の言語活動に「『山・海・島』体験交流学习の活動報告を作ろう」を設定し、活動をまとめ効果的に伝える学習を行った。指導にあたっては、伝える相手を来年度参加予定である4年生と設定し、相手意識を明確に持たせるようにした。この単元では活動の内容・活動を通して学んだことを効果的に相手に伝えるために、写真やキーワードを提示して説明するプレゼンテーションの手法を、視聴覚機器を使用した制作方法と併せて学習することができた。

発表朝会における全校への報告会

児童は、自分が発表を担当した活動場面について、相手に伝わるように工夫して発表することを目標にして、発表に臨んだ。相手の目を見て伝えられるように、発表内容や流れをは

っきりと言えるように指導した。児童は、実際に江田島から持ち帰った雲丹（乾燥させ、磨いてきれいな貝殻にしたもの）を「これは何でしょうクイズ」に使うなど、楽しかったことや学んだことについて聞き手をひきつける工夫をしながら堂々と発表を行うことができた。

【交流先や施設等との連携】

4校合同で行うメリットを最大限に高めるため、施設から指導員を招き、プログラム編成のアドバイスを受けた。さらに、事前の交流学习でも、指導員にアイスブレイクのプログラムを実践していただいた。普段少人数集団で生活している児童のコミュニケーション能力の向上や同じ学習を進めていくという仲間意識の醸成に大変効果的であった。



また、4校の5年生担任が事前に現地に赴き、体験活動に係る情報交換や確認作業を行った。実際使用する会場を見ながら説明を聞いたり、施設・活動内容等の確認や施設・活動に関わる安全の確認を行ったりすることで、より充実した活動にすることができた。

里海体験学習では、講師の方と活動内容の確認や準備物の確認を綿密に行った。その結果、当日は事故もなく、全員が海の生物に関心を持ち、意欲的に活動することができた。

現地の小学校（江田島市立三高小学校）との交流活動を行った。その中で、児童は学校の暮らしについて、海の近くと山に囲まれた地域の違いについて体験的に比較し、交流することができた。短い時間ではあったが、視野を広げる貴重な出会いの場となった。

【評価の工夫】

次のような工夫を行い、目標やそれに対応した自己評価・相互評価によって自分の成長がより具体的に、より実感を伴って感じられるようにした。

体験学習のしおりに、各活動の振り返りを記入する欄、思い出川柳を記入する欄を設けた。宿泊体験の学習後に思い出の作文を書かせた。

「思い出ベスト3」を話し合っで決定する授業を設定した。

国語科「活動を報告する文章を書こう」において、活動をまとめ発表させる学習を行った。

【安全面の配慮事項】

事前に家庭科で包丁の取り扱い方や熱湯の扱い方、ご飯の炊き方などを学習した。

カヌー体験では、ライフジャケットの身に着け方やカヌーの漕ぎ方などを事前に学んだ。

4校合同の取組であったため、どの学校も学校を挙げて臨み、連携をとりながら「いつ・誰が・何を・どのように担当するのか」を明確にして計画を立案した。また、非常時に備え、引率者全員の連絡網及び、各学校間の連絡体制を整備した。怪我や病気に対しては、いつでも養護教諭が対応に当たることができる体制を整えた。

真夏時での体験活動であったために、指導員と連携をとり、無理のない体験活動計画を立案するよう配慮した。また、担任が事前に現地に赴き各活動の安全確認を行ったり、飲料水の確保など水分補給に係る配慮をしたりした。

【体験活動の成果と課題】

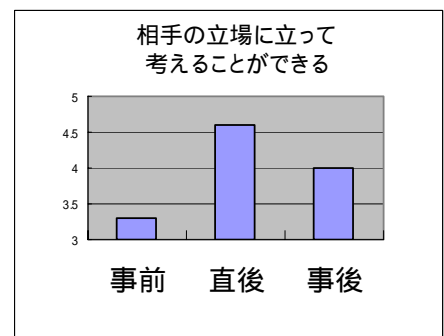
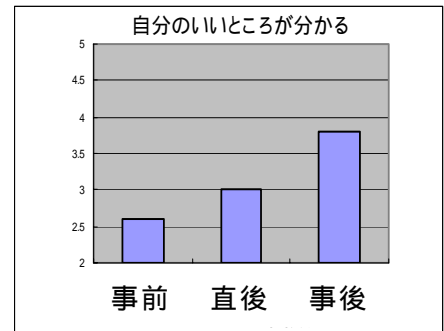
< 児童アンケートより >

他校児童との出会いや活動での協力体験を通し、自己肯定感を高めることができた。今回の体験活動で得た経験や様々な人からの評価から、自分の生活を振り返り、自分自身のよさについて見直すことができた。

今回4名がリーダーに立候補し活動したもののリーダー性の発揮がうまくできなかった。これは、少人数の馴れ合い関係の中で行動している普段の生活では、リーダーとはみんなのためにどうあるべきか、理解できていなかったためと推測できる。真のリーダーとして何が大切なのか、学校生活の中で体験的に考えさせ行動させる場面を増やすなど、今後さらに学習を深めていく。

活動での協力体験を通し、相手を大切に考えることのできる児童が増え、相手や相手の行動をより深く理解しようとする思いやりの気持ちを高めることができた。

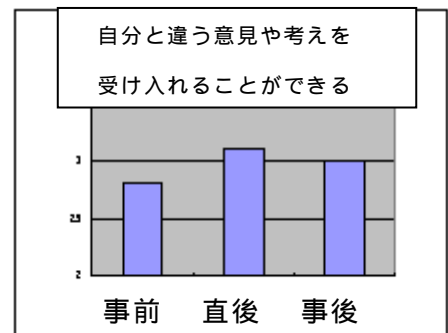
今回の成果を生かし、学級内での児童の人間関係や友だちに対する見方をさらに深める取組を行っているが、まだ十分に成果が出ているとは言えない。今後も指導を継続していきたい。



< 保護者アンケートより >

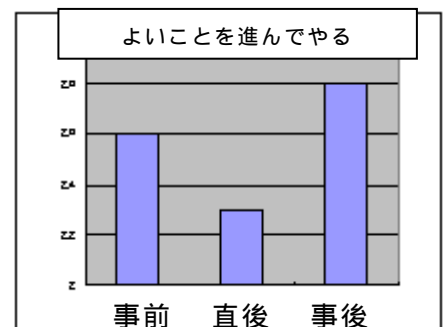
・ 直後（9月）のアンケートより

- ・ 身の回りの事を自分でやってみて初めて、「家族に助けられていたんだ」とありがたさを感じることができるようになった。
- ・ 他校の生徒さんの話をたくさんしてくれて、「いろいろな人がいて考え方がそれぞれあるんだ」と感じているようだった。



・ 3ヵ月後（12月）のアンケートより

- ・ 何かあったとき、すぐ人に頼るのではなく、自分の力でやろうとするようになった。
- ・ 班のリーダーを経験したことで、自分のことだけでなく相手のことを考えたり、全体の様子を見ることができるようになった。



普段とは違う集団生活で高まった力について、プラス評価をする保護者が多かった。

他校合同での3泊4日という長期にわたる宿泊学習の是非について、意見を出される保護者もおられた。今後も児童の成長の様子を発信し、理解を図っていきたい。